

あそび

ある日、ぼくは先生に呼ばれた。
「どうして、人のいやがることを言ったり、したりしたの？」
ぼくは、しばらく考えて、
「遊びでしました。」
と、答えた。
でも、そう答えた後に、ぼくは思った。
「遊びって何だろう？」

そう考えて、ぼくの頭にうかんだのは、
みんなが楽しそうに笑っている顔
みんなで新しいルールを考えたり
新しい遊びを考えてたりしている顔
苦手な友だちに教えたり、
「がんばれー！」って応援したりしている顔

でも、ぼくの前にあったのはちがった。
怒った顔、悲しそうな顔、泣いた顔、
それに、いやな感じの笑い顔
こそこそ、ひそひそ話す顔

「こんなの、遊びじゃない。でも…。これって何だろう？」
ぼくは、先生にきいてみた。
「ぼくがしたことは、遊びじゃありませんでした。
でも、それが何なのか、わかりません。」

「きみがしたことは…。」
先生は少し考えてから言った。
「『悪ふざけ』『いやがらせ』、いや『いじめ』かもしれない」
でも、それを言った先生は優しい顔をしていた。
「誰でも、失敗することはある。きみはもう、自分がしていることが
遊びかどうか、自分でわかるようになったね。」

ぼくは、びっくりしたけど、すぐに思った。
「まず、あやまろう。そして、もっと楽しい遊びを考えるぞ！」

みんなは自分がしていることが、「あそび」かどうか、判断できますか？
みんなが楽しめる本当の「あそび」ができそうですか？